

平成 19 年度予算 施策別概要

227 農林水産業を支える技術 開発の推進

22701 農業を支える技術開発の推進
(政策部科学技術振興センター)

(主担当部局：政策部科学技術振興センター) 22702 畜産業を支える技術開発の推進
(政策部科学技術振興センター)

22703 林業を支える技術開発の推進
(政策部科学技術振興センター)

22704 水産業を支える技術開発の推進
(政策部科学技術振興センター)

< 施策の目的 >

- (対象) 農林水産業者が
- (意図) 開発された技術を有効利用して、生産活動を行っている

< 施策の数値目標 >

施策目標 項目 (主指標)	研究成果が活用された件数	目標値	2010	1 2 7 件
			2007	1 2 5 件
		現状値	1 2 7 件	

過去 5 年間の研究事業から生み出された研究成果のうち、次の 3 項目のいずれかに該当する、研究成果が活用された件数 技術移転、特許等の実施許諾、研究成果の製品・商品化(科学技術振興センター調べ)

県の取組 目標項目 (副指標)	技術支援件数	目標値	2010	1 , 3 3 6 件
			2007	1 , 3 2 6 件
		現状値	1 , 3 0 5 件	

< 現状と課題 >

- ・ 農林水産業における地域間競争が激化する中、地域の農林水産業を牽引する新しい特産物の開発や「三重ブランド」の創出・発展等、競争力を高めるための技術開発が求められています。
- ・ 消費者の安全・安心に対する関心の増大や地球温暖化の影響等による農林水産物の生産環境の変化への対応、さらには環境に配慮した生産活動等が求められており、農林水産物の高品質化のみならず、安全性の確保や生産活動の持続性・安定性・効率性を高めるための技術開発、環境保全や資源循環型の技術開発ニーズが一層高まっています。

< 平成 19 年度の取組方向 >

農林水産物の競争力を高めるために、水稻・カンキツ・野菜・きのこの等の新品種・地域特産物の開発に取り組むとともに、松阪牛、伊勢茶、真珠等の「三重ブランド」の創出・発展に向けて農林水産物の高品質化をめざします。

安全・安心確保のために、農薬使用量の低減をめざす技術開発や薬剤に頼らない飼養管理技術の開発に取り組みます。

農林水産物の生産を支えるために、生産者ニーズや消費者の動向を踏まえた持続性・安定性・効率性の向上をめざす基盤的技術の開発や、病虫害・獣害防除技術の開発、県産材の用途を開拓する技術の開発、および水産資源の維持管理の調査研究に取り組みます。

環境保全や循環型社会の実現に貢献するために、耕畜連携による家畜ふん堆肥の循環利用や、粗飼料生産と乳牛への給与技術の開発に取り組みます。

<主な事業>

(重) 伊勢茶リフレッシュ支援技術開発事業費 【基本事業名：22701 農業を支える技術開発の推進】

予算額： - 千円 5,100千円

事業概要：伊勢茶のブランド力の向上に貢献するため、品種特性に応じた栽培法や新植園の省力管理法を確立するとともに、茶園環境改善による早期成園化技術開発等に取り組み、三重県の茶業界が行う「伊勢茶リフレッシュ運動」を支援します。

(重) 東紀州地域のカンキツ産業活性化のための技術開発事業費

【基本事業名：22701 農業を支える技術開発の推進】

予算額： - 千円 2,800千円

事業概要：東紀州地域のカンキツ産業の活性化をはかるため、三重県育成のオリジナル品種の栽培技術を開発し、現地へ移転します。また、カンキツの商品性を高めるために、現在栽培されている主要品種について完熟高糖度生産技術を開発します。

(重) マハタ、クエの種苗生産・養殖高度化技術開発事業費

【基本事業名：22704 水産業を支える技術開発の推進】

予算額： - 千円 8,500千円

事業概要：マハタ、クエを東紀州の地域ブランドとして定着をはかるため、高品質種苗を安定して生産する技術を確立し、漁業者等への供給体制を整えるとともに、養殖の高度化をはかる技術を開発します。

耐病性アコヤガイ等の生産に係る産学官連携研究費

【基本事業名：22704 水産業を支える技術開発の推進】

予算額： - 千円 1,825千円

事業概要：アコヤガイの栄養状態を反映する「閉殻力」を指標として、大学や生産者と連携して耐病性の向上を目標とした育種技術及び高品質真珠を生産する貝の養殖技術について検討するとともに、ポータブルタイプの閉殻力測定装置を開発します。

抗菌性物質無添加飼料給与による豚肉生産技術の開発費

【基本事業名：22702 畜産業を支える技術開発の推進】

予算額： - 千円 1,666千円

事業概要：養豚農家では疾病の予防や発育改善を目的に抗菌性物質を添加した飼料が一定期間給与されていますが、一方で消費者からは安全安心に対する強いニーズがあります。そこで、抗菌性物質を添加しない飼料の給与による豚肉生産技術を開発します。

(重) 長伐期化に対応した森林管理・中大径材利用技術の開発事業費

【基本事業名：22703 林業を支える技術開発の推進】

予算額： - 千円 1,500千円

事業概要：植栽から伐採までの育成期間の長期化に対応するため、長伐期人工林の成長特性を調査し、本県独自の長伐期化に対応した人工林「林分収穫表」(*注1)の作成などを行って森林管理技術を確立するとともに、生産される中・大径材を梁桁材に利用するため、木造建築設計に必要なスパン表(*注2)の作成研究に取り組みます。

(*注1) 林分収穫表：標準的な手入れをした場合、樹種別、地域別に単位面積あたりの本数、直径、樹高、材積量等を林齢別に表したもの

(*注2) スパン表：木造建築において、荷重条件や支柱の間隔に応じて必要となる部材の断面寸法を示したもの

耕畜連携による粗飼料生産と乳牛への給与技術の開発費

【基本事業名：22702 畜産を支える技術開発の推進】

予算額： 4,000千円 7,321千円

事業概要：飼料自給率の向上をはかり資源循環型酪農に貢献するため、水田で生産される粗飼料の高品質化と栄養価の向上をはかるとともに、それをういた乳牛飼養技術を開発します。